



教授の呟き

第60回

均一さと多様さが飛び交う年末

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

●●● クリスマス一色のマニラ

クリスマスが近づいてきた。むかし住んでいたフィリピンでは、スペルの末尾に「er」のつく9月から12月がクリスマスという。12月にもなれば、大きなホテルやビルでは、壁一面にイルミネーションを取り付ける。住宅地でも、信仰の深さを競い合うように家を飾り立てる。街じゅうが、ディズニーランドのエレクトリカルパレードの雰囲気である。

イスラム教徒もいるフィリピンだが、少なくとも12月のマニラの街は、クリスマス一色になる。

●●● 宗教が多様な国、レバノン

一方で、宗教が多様な国もある。

レバノンは「中東のスイス」と呼ばれ、首都のベイルートは「中東のパリ」と称されていた。しかし1975年に始まったレバノン内戦や最近起きた紛争で疲弊していった。内戦の原因が宗教対立と言われるほど、確執の根は深い。

数年前に訪ねたときに、耳にしたことである。レバノンでは、キリスト教とイスラム教の宗派を細かく数えると18ほどになるようで、内閣の閣僚は宗派のバランスを考えて選任されるとのこと。また山道をたどると宗派ごとに集落を棲み分けていて、異なる宗派の人と一緒にバスに乗りたくないから、通勤には自家用車を利用する人が多いとも聞いた。

1人1人が真摯（しんし）に宗教と向き合うことは同じでも、クリスマス一色のマニラと、多様な宗教が併存するベイルートの間には、大きな開きがある。

●●● 多様な行事を皆で祝う

ひるがえって、日本はどんなものだろうか。

ある友人は、新車の購入をあえて年末まで延ばし、奥さまへのクリスマスプレゼントにした。心配症の奥さまは、交通安全のおはらいをしないことには落ち着かない。そこで奥さま自ら新車に塩とお神酒をまいて、お清めをしたそうである。帰宅後、ことの顛末（てんまつ）を誇らしげに語る奥さまには何も言えないまま、ご主人はあわててガレージに向かい、せっかくの新車が錆びてはいけないと洗車したとのこと。

クリスマスプレゼントとおはらいの合わせ技。ウソのような本当の話だが、笑えない。

なぜなら多くの日本人は、わずか1週間のあいだに、クリスマスを祝い、お寺の除夜の鐘を聞き、神社に初詣に出かける。多様な宗教行事を、当然のように受け入れている。

●●● 最初は同じで、次第にバラエティー

一方で、日本人には集団主義や協調性を求める面もある。

先日テレビで、いたずらめいた実験をしていた。何人かで居酒屋に入



まずはビールで乾杯



時間がたつと皆バラバラ

ると、普通なら「まずはビール」で乾杯だが、あえて1人だけ別の注文をして雰囲気の変化を見ようというものだった。

上司が1人だけ「焼酎」などと言うと、部下たちはうつむき沈黙する。次の場面で、若い社員が「ジントニック」などと言うと、「どうした。具合でも悪いのか」「ビールでいいじゃないか」などと声がかかっていた。この様子をビデオで見せられた外国人が、「なぜ好きなものを飲んではいけないのか」とびっくりしている顔が忘れられない。

しかし「まずはビール」という均一な注文は、同じものが同時に届くという点で、協調性の確認とロジスティクスの簡素化の証でもある。ビールの後には、梅酒ロックでも、カンパリソーダでも、多様さを競えばよい。

●●● 均一と多様の使い分け ●●●

多様さを受け入れながらも、全体

としては均一な行動をとるところに、日本人の特徴があるのかもしれない。

年賀状のデザインも1種類なら、早くできる。大晦日に食べる年越しそばも、全員が「天ぷらせいろう」であれば準備も楽だ。初詣の順路も皆同じなら、混み合うものの錯綜（さくそう）は避けられる。

しかし最近では、顧客満足度の向上や多頻度少量などのかけ声のもとで、多様さばかりを追求しているように思う。年末に販売されるお節料理のセットをみても、洋風もあれば単身者用もある。クリスマスケーキも、

定番のショートケーキだけでなく、チョコレートケーキやフルーツケーキもある。

多様さを求めすぎること効率が悪くなったり、ムダが多くなることも多いはずだ。もう少し「均一さ」を取り入れ、「多様さ」とうまく「使い分けの工夫」があっても良い。それが可能な国民性でもありそうだ。

この「使い分けの練習」のためにも、年末にはせっせと忘年会に参加してみよう。その宴会でも、「まずはビール」と乾杯してみたいと思う。



<p>Profile</p>	<p>東京海洋大学 海洋工学部 流通情報工学科 教授</p>
	<p>苦瀬博仁</p> <p>(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/</p>